

■ 編集委員

齋藤 一之（委員長）

板橋 明 糸山 進次

菰田 二一

鈴木 洋通

竹内 勤

土田 哲也

中塚 貴志

西村 重敬

禾 秦壽

廣瀬 隆則

間嶋 満

渡辺 修一

（五十音順）

■ 編集後記

どうしたらよい論文を書けるのか？

よい論文とはただ新しいことが書いてあるだけではなく、創造によるartであり、美しいものです。「どうしたらよい小説を書けるのか？」とか「どうしたらよい音楽を作曲できるのか？」と問われて困惑するのと同じで、簡単な方法はありません。と言ってしまってはこの文の価値がゼロになってしまうので、実行可能なことを再確認しましょう。

まず「素材」、つぎに「仕上げ」です。ダイアモンドをよいデザインと高い技術でカットすれば、美しい輝きが得られます。よい原石も加工しなければ輝きませんし、ただの石はいくら磨いても石です。

では、よい原石はどうしたら得られるのでしょうか？答えは「テーマへの強い愛情」と「見つけよう、明らかにしよう、という絶対に諦めない執念」です。トコトン考える、文献も徹底的に集めて読み尽くす、ことが必須です。

仕上げについては数多の指南書¹⁾が出版されています。端的にいえば、「論理」と「明快さ」です（言葉は簡単ですが、練習の積み重ねが必要です）。さらに、最終仕上げがあります。これは努力さえすれば誰にでもできます。「誤字 misspelling」などを完璧に駆逐することです。また、専門用語がある部分では日本語、ある部分では英語、ある部分では略語、などの不統一も不細工ですから完全に退治しましょう。

当たり前のことが並びました。もちろん「天才的なひらめき」も欲しいところですが、こればかりは望んで得られるものではありません。しかし、当たり前のことは実行できます（しつこいようですが簡単なことではありません）。「進歩がまだ希望であった頃」という本²⁾があります。ベンジャミン・フランクリン(1706-1790)と福澤諭吉(1835-1901)という約100年違う時代に大きく社会を変革した2人の自伝^{3,4)}から、人物を対比して類似点を示した本です。共通点は、偉大な「常識人」と、自らマメに作業をこなしていく「克明な人(器用な人)」、です。当たり前のこと強いて意志で着実に具体化していった人たちです。

「愛情」と「執念」と「完璧な仕上げ」の果実をどんどん投稿して下さい。

1) 木下是雄. 理科系の作文技術, 中公新書624, 中央公論新社, 1981.

2) 平川祐弘. 進歩がまだ希望であった頃, 講談社学術文庫910, 講談社, 1990.

3) 福澤諭吉(富田正文校訂), 新訂福翁自伝, 岩波文庫青102-2, 岩波書店, 1978.

4) ベンジャミン・フランクリン(松本慎一・西川正身訳), フランクリン自伝, 岩波文庫赤301-1, 岩波書店, 1957.

(渡辺 修一)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/uinfo/jsms/>

第30巻 第3号 通巻110号 (季刊)

編集責任者

齋藤 一之

平成15年6月30日 発行

発行所

埼玉医科大学医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2125 (直通) FAX 049(276)2127 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制作

株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741 (代) <http://www.atene.co.jp>